

早稲田社会学会ニュース 第 67 号

2026 年 4 月 28 日発行

早稲田社会学会事務局

〒162-8644 東京都新宿区戸山 1-24-1

早稲田大学文学部 社会学研究室内

Tel: 03-5286-3742

E-mail: socio-office@list.waseda.jp

URL : <https://assoc-wss.w.waseda.jp/>

今回のニュースの内容

1. 第 78 回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ
2. 本年度大会シンポジウムについて
3. 大会一般報告の募集
4. 『社会学年誌』第 68 号投稿の募集
5. 早稲田大学リポジトリにおける『社会学年誌』掲載論文の公開
6. 2026 年度研究助成の募集
7. 第 47 回早稲田社会学会研究例会のお知らせ
8. 入退会者のお知らせ
9. 学会費納入のお願い
10. 事務局よりお願い

1. 第 78 回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ

本年度の早稲田社会学会大会および総会は、2026 年 7 月 4 日（土）に開催されます。

すでにご案内しているとおり今期研究活動委員会では、2024 年度～2027 年度シンポジウムとして共通テーマ「社会の危機と社会学の危機」を設定しています。「『食』を考える」（2024 年度）、「セクシュアリティを考える」（2025 年度）につづき、今年は「災害を考える」とします。詳細につきましては、「本年度大会シンポジウムについて」をご参照ください。一般報告などを含むプログラムの

詳細につきましては、学会ウェブサイト上にてお知らせする予定です。開催方法、参加方法等、詳細につきましては、追ってご連絡いたします。

事務局では大会での一般報告を募集いたします。報告を希望される方は、「大会一般報告の募集」をご参照のうえ、事務局までお申込みください。

2. 本年度大会シンポジウムについて

日時：2026 年 7 月 4 日（土） 13:30－17:00

開催方法につきましては、追ってご案内します。

申込：事前申込については学会ウェブサイト上にてお知らせします

テーマ：社会の危機と社会学の危機 2026:

災害の新たな局面に対応しうる災害社会学とは

（以下敬称略）

横山智樹（宇都宮大学）

地域社会学をベースにした立場から（地域と人との関係や地域集団の長期的動向に注目するアプローチ）

安本真也（東京大学）

社会心理学や情報学をベースにした立場から（災害のコミュニケーションに関わる社会意識の量的把握によるアプローチ）

山崎真帆（東北学院大学）

文化人類学をベースにした立場から（エスノグラフィの手法を用いた研究、災害現象の周縁・境界に注目するアプローチ）

コメンテーター：浦野正樹（早稲田大学名誉教授）

司会者：野坂真（青森公立大学）

*なお本シンポジウムは、大規模災害に備える若手減災ネットワークとの共催です。

趣旨説明

本年度の研究例会・大会シンポジウムのテーマは「災害」である。現代社会は、いつ・どこで・何の災害が起こるか分からない災害多発社会と言える。それゆえに、災害後の復旧・復興の見通しを立てにくい社会になっている。これまでの社会では、「発災⇒応急対応⇒復旧・復興⇒被害軽減・被害抑止⇒地域自立⇒発災・・・」という減災サイクルを念頭に、発災と発災との間に生じる空隙において、被災した人々や地域が回復し次の災害への被害軽減対策が行われることを前提としてきたが、この前提が成り立ちにくい状況が生じている。

阪神・淡路大震災以降、東日本大震災においても、復興段階において、次の災害発生に備えてより災害に対して強靱な地域づくりを行う Build Back Better（拡張・発展的復興）が前提とされてきたが、2016年に起こった熊本地震のころから人手・資材不足によって元通りに復旧させることすらできない状況が生じていると指摘されている。減災サイクルに入れない人々や地域も出てきているのである。多重被災によって減災サイクルが中断される事態も起こっている。例えば、2024年に発生した能登半島地震と奥能登豪雨では、被害軽減対策が未だ完成していない復興の最中、あるいはライフラインなど生活に最低限必要な社会の仕組みが元通りに復旧する前に多重被災している。

近年の災害は、いつ始まったのか、そしていつ終わるのが分かりにくい gradual onset disasters の特徴も強くなっている。COVID-19 によるパンデミック、2025年に各地で続発したクマによる人身被害などでは、社会経済活動を維持しつつその災害と共存する社会が模索されている。

減災サイクルに沿って被災した社会は復興するというこれまでの前提を覆すような新たな局面を災害および被災後の社会が見せる中、社会学者は災害という社会現象にどう向き合えば良いのか。本年度の研究例会・大会シンポジウムでは、社会学と隣接する学問分野も含めた、災害を対象とする社会学的な研究（以降、災害社会学と称する）に取り組む人々から、災害の現場にも通いながら研究を行う中でどのような困難に直面し、その困難に対応しようとしているかを話してもらい、上記の問いに答える。

災害社会学では、既存の社会学やその隣接する学問分野における分析枠組みにも立脚しながら、災害へ幅広い視点からアプローチしてきた。例えば、地域社会学に立脚した研究では、被害を受けた地域社会に対する災害の社会的影響を長期的かつ包括的に調べてきた。組織論に立脚した研究では、行政組織やライフライン機関、ボランティアなど多様な主体が、相互に関連していく過程を分析してきた。一方、地域や集団の客観的な動向だけを研究対象にするのではなく、被災した当事者や社会成員個々人の経験や認識に注目した研究も数多くなされてきた。例えば、エスノグラフィの手法に立脚した研究では、社会的に認知される災害や復興のドミナント・ストーリーとは異なる、当事者個々の多様な経験をいかに記録し継承していくかを検討するなどしてきた。また、情報学に立脚した研究では、災害やそれに関わる社会事象が人々の間でどのように認識されているかを捉えようとしてきた。

本シンポジウムでは扱いきれない可能性があるが、故郷喪失など被災を経験した人々が共通して抱く心理面への影響を集合的トラウマといった概念で捉えようとしてきた社会心理学に立脚した研究や、被災を経験した当事者がいかに心の復興過程を歩んでいくかを（心理学的な）レジリエンス概念などから捉えようとしている臨床社会学に立脚した研究などもある。

本年度の研究例会・大会シンポジウムでは、アプローチの幅広さを再確認しつつ、それぞれのアプローチを組み合わせる可能性も検討するなどして、これまでの前提を覆すような新たな局面に対応する災害社会学のあり方を検討する機会としたい。なお、本シンポジウムは「大規模災害に備える若手減災ネットワーク」の協力を得て開催される。

（文責：青森公立大学 野坂 真）

3. 大会一般報告の募集

大会午前中(10:00-12:00 予定)の一般報告を希望される方は、以下の項目を明記の上、事務局宛に E-mail にてお申し込みください。その際の件名は「大会一般報告申し込み」としてください（今回、大会が対面方式になっても、希望者はオンラインによる報告も可とします）。

必要事項

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 連絡先（郵便番号、住所、電話番号、E-mail アドレス）
- (4) 連題目（副題を別として 25 字程度まで）
- (5) 連内容概略（200～400 字程度）

送付先: socio-office@list.waseda.jp 締切: 2026 年 6 月 1 日(月)12:00AM

※ 『社会学年誌』投稿とは締切日が異なりますので、ご注意ください。

現在早稲田社会学会会員ではない方で、報告を希望される場合は、上記の必要事項とあわせて入会申込書をご提出ください（なお、本年度については PDF 等のかたちで E-mail にてご提出ください。当面、推薦人の署名捺印は不要とします）。入会申込の手続および申込書フォーマットの入手につきましては、学会ウェブサイトの「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

4. 『社会学年誌』第 68 号投稿の募集

本年度の『社会学年誌』に投稿を希望される方は、6 月 30 日（火）23:59 までに以下の項目を事務局宛に E-mail にてお送りください。メールの件名は「『社会学年誌』投稿申込」としてください。

- (1)氏名
- (2)所属
- (3)郵便番号、住所、電話番号、FAX 番号、E-mail アドレス
- (4)題目（副題を別として 25 字程度まで）
- (5)内容概略（200～400 字程度）
- (6)電子版公開可否

『社会学年誌』原稿の提出締切は、8 月末日です（紙媒体の原稿の郵送は不要となりましたので、上記事務局の E-mail に添付ファイルとしてお送り下さい）。申込書提出後の題目、内容の大幅な変更は認められませんのでご注意ください。また、申込後に投稿を辞退される場合は、8 月 15 日（土）までに事務局宛にその旨を必ずご連絡ください。なお、分量、書式その他、投稿規定については、学会 HP あるいは『社会学年誌』の最新号をご参照ください。現在早稲田社会学会会員でない方で投稿をご希望の方は、上記の申込とあわせて入会申込書をお送りください。入会申込の手続きまたは申込書の入手方法につきましては、学会 HP の「入会案内」をご覧ください。事務局まで E-mail でお問い合わせください。

編集委員会では、第 67 号から、掲載された論文を原則として「早稲田大学リポジトリ」にてオンライン公開することとなりました。電子版公開を希望されない場合は、必ずその旨を明記いただくようお願いいたします。

5. 早稲田大学リポジトリにおける『社会学年誌』掲載論文の公開

『社会学年誌』66 号、67 号の掲載論文・記事につきまして、早稲田大学リポジトリに登録いたしました。下記の早稲田大学リポジトリ・ウェブサイトより、「学術研究団体（Learned society）」→「社会学年誌」へとお進みください。

<https://waseda.repo.nii.ac.jp/>

6. 2026 年度研究助成の募集

これまで当学会に寄せられた寄付金により、寄付者のご意思を尊重し、研究活動の助成を行ってきました。その結果、2026 年度助成可能な残りの額は 50,523 円となりました。理事会で慎重に審議し、今年度は、この額を上限として募集を行います。決して十分な額とは言えないと思いますが、寄付者のご意思を踏まえ、少しでも会員各位の研究助成に役立てられることを願っています。

- ・助成対象：早稲田社会学会の発展に寄与する研究活動
- ・助成額：50,523 円を上限とする

助成を希望される方は事務局まで E-mail でご連絡ください。件名を、「研究助成申請希望」として下さい。申請書用紙は、早稲田社会学会ウェブサイト「早稲田社会学会研究助成」「申請手続き」からダウンロードしてください。申請書の提出締め切りは、5 月 11 日(月)9:00AM（事務局宛 E-mail のみ有効。郵送不可）です。

なお、募集は、「早稲田社会学会研究助成取り扱い要領」の規定により、「助成の直前の年度まで継続して 2 年以上の会員歴がある」方が対象となります。また研究助成を受けられた方には、学会大会一般報告(または学会誌投稿)により、その成果を報告していただくようお願いいたします。またこの趣旨に賛同される方からのご寄付も募っております。寄付については事務局にお問い合わせ下さい。

7. 第 47 回早稲田社会学会研究例会のお知らせ

日時：2026 年 5 月 16 日（土）14:00－17:00

会場：オンライン開催

参加費：無料

申込：2026 年 5 月 11 日（月）12：00AM までに、以下の Google フォームよりご登録ください。
後日参加方法について連絡いたします。

<https://forms.gle/fHFevHPz5bM4QyJc7>

テーマ： 災害復興をめぐる研究のいまー2024 年能登半島地震・奥能登豪雨の現場から

報告者： 高原耕平（金沢大学）「長い迷いを支えるために：能登半島の自律定常的復興への試論」

雁部那由多（東北学院大学）「被災地を去ることの調整実践：集団の枠組みが形成しにくい局面における能登の生活再建」

司 会： 野坂真（青森公立大学）

8. 入退会者のお知らせ

入会者 なし

退会者 なし

9. 学会費納入のお願い

今年度の学会費をお振り込みくださいますようお願いいたします。別途、郵便にて「郵便振替払込書」をお送りいたします。

年会費：一般会員 5,000 円 学生会員 3,000 円

口座番号：00100-3-38020（郵便振替）

加入者名：早稲田社会学会

複数年度分の会費を納入される場合、および転居・異動などがあった場合には、別途メールにてその旨をお知らせください。なお、年会費の納入記録についてのお問い合わせなどがありましたら、事務局（socio-office@list.waseda.jp）までご連絡ください。

10. 事務局よりお願い

■事務局への連絡はできるだけメールでお願いいたします。

コロナ禍以後、事務局運営上の実務の多くをオンラインで行っております。学会事務局へのご連絡等は、できるだけ郵便でなくメールにてお願いいたします。郵便の場合、対応が大変遅れる可能性があります。いろいろとご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

■学会費の納入にご理解とご協力をお願いいたします。

近年、学会費納入率が低下しており、学会運営に支障をきたしております。特に 2020 年度以後、コロナ禍で、学会費の納入状況が大変低下しました。会員の皆様には、引き続き、早稲田社会学会活動にご理解いただき、会費を納入いただけますようお願いいたします。

以上